

## 令和5年度大学コンソーシアムとちぎ 学生生活活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮大学
団体等名	空き家の友
学生代表者氏名 (所属・学年)	白金 励大 宇都宮大学大学院 地域創生研究科社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム1年
責任教職員氏名	石井大一郎

1. 事業名	宮の原地区の空き家をモデルとした地域学びあいプロジェクトの実施と普及
2. 実施時期	令和5年8月から令和6年3月
3. 実施場所	栃木県宇都宮市宮の原地区
4. 事業の内容等	<p>宇都宮市宮の原地区において、2021年より活用を進める、空き家を用いて、「全世代型の学び」を核とした地域拠点づくりを、4つの事業の企画・運営を通して行う。これにより、高齢化が進むなどし、成熟する住宅地における、身近な地域に必要な学びのプログラムの開発を行う。また、地域の担い手が高齢化するなかで、地域づくりにおいて自治会町内会と学生チームが協働して、どのように力を生かしあったり、また課題があるのかを把握する。最終的には、参加学生や地域リーダー、市職員などを交えた報告会を行い、宮の原モデルの普及方法を探る。</p> <p>&lt;事業1:あきやのてらこや&gt;8月開催 概要 宮の原地域の主に小学生を対象として大学生らが勉強やその他の活動を、教えながら一緒に取り組む。地域との関わりを強めるための一つとして、子供たちとの交流の場を作る。</p> <p>目的 地域の小学生の居場所や学校とは別の活動の場を作り、小学生と大学生との異年齢交流の機会とする。</p> <p>内容 参加者である小学生が持参する課題を中心に勉強を教える。また、希望者を募り、一人では難しかったり、家の中が汚れてしまうなどの理由でできないような少し規模の大きい濾過実験に加え、ボードゲームや裏庭を利用した簡易的なスポーツ・アクティビティを行う。</p> <p>安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故などの防止のため、大学生側の人数はなるべく多くする</li> <li>・夏に行う場合は、熱中症対策のための水分補給等を徹底する</li> <li>・実験や工作の際には怪我防止のため必要に応じて手袋等を配布</li> </ul>

(貸  
出)する

- ・場所や用具の安全確認を徹底する

<事業 2:あきやのDIY>9月、10月開催

概要

空き家所有者の意向を調査しつつ、学生に呼びかけ、活動拠点である空き家のDIYを行う。

目的

活動拠点である宮の原空き家の環境整備をし、空き家自体の維持管理の方法を学ぶ。また、空き家所有者や地域住民、参加者の空き家への愛着の醸成を図ると共に学生間や、地域住民と学生の交流を促進する。

内容

DIYワークショップを開催する。今後のイベントで活用できる受付台をつくったり空き家の内装にペンキを塗ったりと、木工・塗装、損傷箇所の修繕の実践方法を学ぶ機会とする。

安全対策

- ・建築士のアドバイスを受けて場所の安全確認を行う。
- ・道具を使用する前に講習を行う。
- ・場合に応じて手袋等の配布を行う。

<事業 3:あきやのえんにち>12月開催

概要

小さな子どもからお年寄りまで多くの人が空き家に集い、縁日での遊びや会話を通して幅広い世代と交流する。

目的

広い世代が集まるイベントを通して地域の人同士や、地域と学生の顔の見える関係づくりやつながりを生み出す。

内容

地域の支援者の協力を得た協働の企画づくりを学ぶ。子どもから大人まで気軽に遊べる射的やヨーヨー釣りなどの遊びのコーナーを開く。また、駄菓子を中心とした食品を販売する。

安全対策

- ・食品の提供は個包装のものにする。
- ・小さな子どもがゲームコーナーで遊ぶときは必ず付き添う。

<事業 4:スマホ教室>2月開催

概要

宮の原地域の高齢者の数は全体の約25%。そして、高齢者の抱える課題としてスマホを上手く使いこなせないというものがある。この問題を解決するために、実際に大学生がレクチャーしながら自分のスマホを思うように利用できるようにする。

目的

高齢者が上手く自分のスマートフォンを使いこなせるようにす

る。スマホ教室を通して、高齢者×大学生というナナメの関係性を構築し、今後の他のイベント時に参加しやすい状況を作り出す。

内容

一日のイベントとして開催する。スマートフォンの使い方を目の前で教える学生と、高齢者につきっきりでサポートしながら教える学生の体制でイベントを運営していく。先に参加したい高齢者に具体的にどのようなことを知りたいのかをアンケート等で聞き、そのニーズに答えるように進めていく。このイベントは定期的な開催を予定し、宮の原地区の高齢者全員が満足いくぐらいスマートフォンを利用できるようにするのが目標である。

安全対策

- ・高齢者一人に学生一人のサポート体制をとる。
- ・ウィルス対策等の衛生面の対応を丁寧に行う。
- ・自治会に対して具体的にどのような安全対策があるとよりよいのかを確認する。

以上の取り組みを踏まえ、子どもや親御さん向け、高齢者向けに行う学びのプログラム、また、地域と学生の交流プログラムに関するコーディネート方法などに関する報告会を開催し、今後の同地域や他所での展開につなげる。

5. 事業の成果と今後の課題

<事業1:あきやのてらこや>

成果

小学生に勉強を指導するという手段を用いて運営側から積極的に交流することができた。また、勉強を教えるだけでなく濾過実験やボードゲームをすることにより、気軽にコミュニケーションも図ることができた。

今後の課題

イベントの広報が遅れてしまったため、参加者が想定より少なかった。また、夏開催ということでスポットクーラーなどを設置して暑さ対策を行ったが、それだけでは暑さをしのぐことができなかった。そのため、早めに小学校やコミュニティセンターへ告知を心がけ、申込み期間に余裕をつくる。暑さ対策としては、室温調整ができる施設での開催を検討する。



勉強指導の様子



濾過実験の様子

<事業2:あきやのDIY>

成果

当イベントの主な対象である大学生の、夏休み期間を日程としたため、6日間の日程で30人程度の参加者を獲得することができた。運営側の知人の参加が多かったこともあり栃木県外からの参加者も数人おり、地域を越えた交流をすることができた。DIYワークショップにより作成したイベント受付用の台など、今後のイベントで活用できる制作物をつくることができた。

#### 今後の課題

開催日を6日設けたことと、参加者の人数が多い日があったことにより、手持ち無沙汰になってしまう瞬間があった。日数と参加人数に合わせたワークショップの内容を考えることで臨機応変な対応が可能な内容にすることが対策としてあげられる。



DIYワークショップの様子

#### <事業3:あきやのえんにち>

##### 成果

子どもからお年寄りまで幅広い世代の参加者を獲得することができた。えんにちや空き家内での駄菓子の販売という非日常的な空間の中で地域住民と学生との交流をつくり出すことができ、楽しい雰囲気を生み出すことができた。また、一年間イベントを開催した中での年度最後のイベントということもあり、学生側から積極的に地域住民にあいさつや声かけをする様子が見られた。

##### 今後の課題

自治会の回覧板や小学校にポスターでの広報をしたため、周知できているつもりだったが想定より参加者の数が少なかった。今後は小学校だけでなく、学童や幼稚園、老人会など様々な地域コミュニティにアプローチすることでより周知につながると考える。



えんにちの様子

#### <事業4:スマホ教室>

##### 成果

高齢者に一対一でのスマホ指導という形をとったことで、高齢者と学生のより密接した交流の場をつくることができた。スマホのお悩み相談をする中で、学生がサポートしながら、対象である老人会のグループラインを作成するなど、目に見える成果を生み出すこともできた。

#### 今後の課題

一対一での指導をしていたこともあり、途中参加者への対応が遅れてしまった。また、高齢者目線でのイベントの形式について考えが浅かったことも気づきであった。対策としては、つきっきりで高齢者の対応をするスタッフと、全体を見渡すスタッフを分担することが考えられる。また、高齢者の視点を考え、段差をなくすスロープや座椅子を設けることが考えられる。



スマホ教室の様子

- (注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。  
報告書（添付書類を含まず）はA4判3枚以上5枚以内にまとめてください。
3. この報告書は、各関係機関等へ公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を予定しており、次年度以降の学生生活動支援事業に役立てていきます。